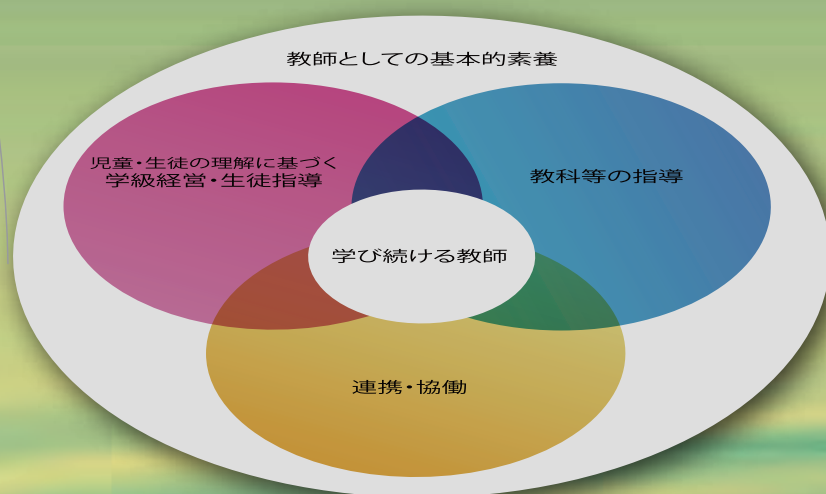


HUTE STANDARDS

FOR TEACHER EDUCATION IN GRADUATE SCHOOL

教員養成スタンダード (大学院)



教員養成スタンダード(大学院)の趣旨

教員養成の高度化を見据えて、教員等の高度専門職業人としての力量形成を確かなものとするために、経歴や年代の異なる大学院生が、コースの求める人材像に基づいて、それぞれの学びの質的側面を可視化し、自己成長を振り返ることができるツールとして、また、基本的な教員像をベースに、指導教員が、コースの専門性を反映した力量形成を促すカリキュラムや研究をより豊かに指導することができるツールとして、資質能力の体系を大学院版の教員養成スタンダードとして策定しました。

教員養成スタンダード(大学院)の2つの枠組み

本学の大学院生の経歴は多様であり、各専攻・コースの養成する人材像やそのコースが目指す知識や技能の定着方針も同一ではないことから、本学大学院の教員養成スタンダードは、全コース共通の「基礎部分のスタンダード」と、各コース別の「専門性の実現に向けたスタンダード」の2つの枠組みで構成しています。

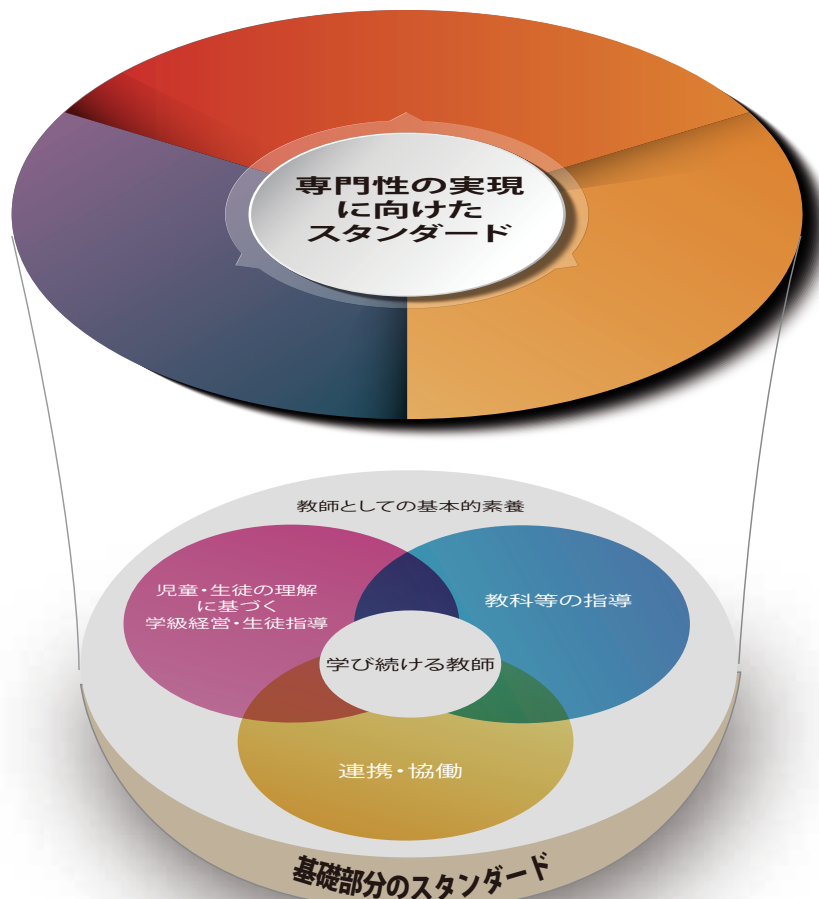
「基礎部分のスタンダード」は、本学学部の教員養成スタンダードの5領域をベースにししながら、教員としての専門性に必要な、基礎的な資質能力について15項目を設定しており、学生は自己の持っている資質能力を大学院の学びで補強していきます。

「専門性の実現に向けたスタンダード」は、各コースが養成する人材像やコースの方針・特性に応じて、コース毎に3項目を設定しており、学生は所属コースの「専門性の実現に向けたスタンダード」に基づき、自身の専門性の実現に向けて目標を設定します。

教員養成スタンダード(大学院)の評価

教員養成スタンダード(大学院)は、大学が学生に対して学びの保証をするとともに、学生自身が自己の学びを、個人で定める到達目標のための基準として捉え、対外的に自己の学びを保証するエビデンスとなるものです。

「基礎部分のスタンダード」は、4つの尺度(「十分できる」「ほぼできる」「少しできる」「できない」)で自己評価し、自己省察につなげます。また、「専門性の実現に向けたスタンダード」は、個々の学生が自分の学びを設定し、その成果を保証していく「学びのスタンダード」となっています。



教員養成スタンダード(大学院)による学びのサイクル

教員養成スタンダード(大学院)に基づく大学院生活の設計



「基礎部分のスタンダード」を手がかりに学校教育に関わる資質や能力について理解し、自己のキャリアステージに応じた到達目標の達成に向けて研鑽します。また「専門性の実現に向けたスタンダード」に基づいた自らの探究課題を明確化し、研究計画を立てて、大学院生活の設計をします。

自己評価票における
目標設定

自己評価に
基づく学びの
振り返りと
自己省察

自らの学びを振り返りどのような気づきや発見があったのかを確認します。「基礎部分のスタンダード」と「専門性の実現に向けたスタンダード」に照らし合わせて自らの成長を客観的に見つめ直し、自己評価を行います。それによって自己省察を行い、新たな課題を明確にします。

スタンダードによる自己評価と学びの総括



授業・実習等を通じた研究・研修

授業等を通じて各コースの専門性についての知見を獲得するとともに理論と実践を往還する研究方法を取得し、アクティブ・ラーニング等による能動的な研究態度を形成して自己の探究課題を追求します。その過程でスタンダードに示された資質や能力について自己確認します。

授業等による
研究・研修の
過程で資質や
能力の観点から
自己確認

多様な成果物を蓄積し、スタンダードに基づいて獲得した資質や能力(到達目標の達成度)を自己評価します。

- ・課題レポート
- ・作品、制作物
- ・実習記録
- ・修士論文
- ・特定の課題についての学修の成果



研究・研修成果の記録・蓄積

基礎部分のスタンダード

| 5 領域 | スタンダード | |
|-----------------------|--------|---|
| 学び続ける教師 | 1 | 省察的实践による課題改善を図ることができる |
| | 2 | 研究を通じた専門性向上をめざすことができる |
| | 3 | 長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる |
| 教師としての基本的素養 | 4 | 社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる |
| | 5 | 教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている |
| 児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導 | 6 | 児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる |
| | 7 | 学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる |
| | 8 | 児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる |
| 教科等の指導 | 9 | 専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる |
| | 10 | 学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる |
| | 11 | 学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる |
| | 12 | 教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる |
| 連携・協働 | 13 | 学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる |
| | 14 | 多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている |
| | 15 | 保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している |

基礎部分のスタンダード（幼年教育）

| 5 領域 | スタンダード | |
|------------------|--------|--|
| 学び続ける教師 | 1 | 省察的实践による課題改善を図ることができる |
| | 2 | 研究を通じた専門性向上をめざすことができる |
| | 3 | 長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる |
| 教師としての基本的素養 | 4 | 社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる |
| | 5 | 教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている |
| 子ども理解に基づく指導と学級経営 | 6 | 子どもの発達についての知見を踏まえて一人ひとりの子どもにかかわることができる |
| | 7 | 学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団の育成ができる |
| | 8 | 子どもの多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる |
| 保育の展開と指導 | 9 | 専門的な知見をもとに保育内容を探究し、教材開発につなげることができる |
| | 10 | 保育方法を分析する幅広い知識を有し、子どもの遊びや育ちを支援することができる |
| | 11 | 長期的な発達の見通しと子どもの実態を踏まえて指導計画に反映させることができる |
| | 12 | 教師としての専門的な知見を保育研究に生かすことができる |
| 連携・協働 | 13 | 保育の評価に関する多面的な理解をもとに、評価を指導に生かすことができる |
| | 14 | 多様な場面で園内での協働を進める方法論を身につけている |
| | 15 | 保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している |

専門性の実現に向けたスタンダード（コース毎に3項目を設定）

| 専攻 | コース | 観点 | スタンダード |
|-------------|------------------|---|--|
| 人間発達教育 | 教育コミュニケーション | 探究力 | 人間、社会、教育について、広い視野から、根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している |
| | | 実践力 | 人と人との対話的な関係を構築しながら、組織変革のために提言できる実践力を有している |
| | | 研究と実践の融合 | 実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している |
| | 幼年教育・発達支援 | 専門性・研究 | 乳幼児教育や子育てで支援に関する専門的な知見と高度な研究力を持ち、実践の改善に取り組むことができる |
| | | 子育て支援 | 未就園児を含む親子の活動に対する援助と環境構成を適切に行うとともに、地域や保護者の実態に配慮した子育ての支援ができる |
| | | 連携・協働 | 保護者や地域との連携を図りながら、他の教師と協働して保育の改善に取り組むことができる |
| | 学校心理・学校健康教育・発達支援 | 学校心理 | 学校における子どもの支援に役立つ心理学的な理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている |
| | | 発達支援 | 子どもの発達に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている |
| | | 学校健康教育 | 学校保健、学校安全、健康教育に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導力を身につけている |
| | 臨床心理学 | 臨床心理学理論 | 臨床心理学の支援理論と技術とを知り、学校現場をはじめとする各臨床現場での心理職としてこれらの知識・技術を学び続けることのできる専門職者としての探究力をもっている |
| | | 臨床心理学実践 | 学校現場をはじめとする各臨床現場での臨床心理サービスに関わる知見と技術を他者と共有し、高め続けることのできる研究・実践力をもっている |
| | | 理論と実践の融合 | 臨床心理学に基づく支援の理論、および支援技術の実習を通じて、学校現場をはじめとする各臨床現場で臨床心理学的支援の方法を開発・研究・省察していくことができる |
| | 芸術表現系教育 | 教育内容 | 音楽・美術を学ぶ楽しさを知り、教員として学び続けることのできる強靱な探究力をもっている |
| | | 教育方法 | 音楽、図画工作・美術の学習指導に関する理論と方法を学び、それらを他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている |
| | | 教育内容と教育方法の融合 | 音楽・美術の教育内容に関する高度な専門的知識・技能と、教育方法の知見をもとに教育の内容を開発・研究・省察していくことができる |
| 生活・健康・情報系教育 | 教育内容 | 生活・健康・情報に関わる高度な専門的知識と技能を有するとともにそれらを学ぶ楽しさを知り、教員として学び続けることのできる探究力をもっている | |
| | 教育方法 | 生活・健康・情報に関わる学習指導の理論と方法を熟知するとともに、実践力向上に努め続けることのできる研究力をもっている | |
| | 教育内容と教育方法の融合 | 生活・健康・情報に関わる高度な専門的知識・技能と学習指導の理論・方法をもとに、教育の内容と方法を開発・研究・省察することができる | |

| 専攻 | コース | 観点 | スタンダード |
|----------------|----------------------------------|--|---|
| 特別支援教育 | 障害科学 | 障害児・者の教育・福祉と支援における連携 | 障害児・者の教育・福祉に関する理念や制度を知り、多様な学問領域からのアプローチを理解し、多領域の連携・協働による支援について重要性を理解し探究し続けることができる |
| | | 障害理解と啓発 | 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、発達障害、重度重複障害等の多様な障害について、特性の理解を深め、また、障害児・者の周囲に対して理解を促すことができる |
| | | 障害児・者、保護者、学級・学校への支援 | 障害児・者、保護者、学校・学級から地域の支援制度といった、個人レベルから社会レベルに至る様々な次元で、共生社会形成・インクルーシブ教育構築に向けた包括的・体系的支援の必要性を理解し、計画、実践、評価していくことができる |
| | 発達障害支援実践 | コミュニケーションと校内体制 | 教員間コミュニケーションを促す基本スキルを身につけ、キャリアステージに応じて校内や地域の連携・協働を推進することができる |
| | | 個別のニーズと指導計画 | 個別のニーズを見極め、支援・配慮の目標設定を行い、手立て・工夫を取り入れた指導計画を立案して、その結果を評価できる |
| | | 通常の学級と特別支援教育 | 特別支援教育的観点から、通常の学級における授業デザインや学級経営の工夫を考えることができる |
| 教育実践高度化 | 学校経営 | 学校経営 | 学校経営の基本枠組みと理論を理解し、学校経営における問題発見・課題形成ができ、学校の課題解決の方向性を提案する実践力を有している |
| | | 教育行財政 | 教育行財政の基本法規や制度を理解し、教育委員会における問題発見・課題形成ができ、教育委員会の課題解決の方向性を提案する実践力を有している |
| | | 理論と実践の融合 | 学校経営や教育委員会の事例から、成功要因を探り出し、学校や教育委員会に適用するための中範囲の理論化ができる。また、理論をもとにして、学校や教育委員会の改善方策の具体化ができる |
| | 教育方法・生徒指導マネジメント | 「学びを創る」力 | 日々の実践を省察して経験から学ぶことができるとともに、児童生徒に関わる教員自身の学び、そして教員集団の学びをマネジメントすることができる |
| | | 「科学する」力 | 教育学や心理学といった学問から修得した理論や知を基盤に、教育事象から得られたデータを量的・質的に収集・分析して新たな知を創り出すことができる |
| | | 「実践する」力 | 児童生徒の自発的で主体的な成長・発達を支援する視点を持ちながら、学習指導を行うことができるとともに、日々の授業等を通して生徒指導を行うことができる |
| | 言語系教科マネジメント | 教科内容 | 国語・英語の教科内容の専門知識を涵養する優れた探究力をもち、言語教育実践の質的向上に資する知識の応用を図ることができる |
| | | 教科教育 | 教員として、国語・英語の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる実践力・研究力をもっている |
| | | 教科内容と教科教育の融合 | 国語・英語の教育内容に関する高度な専門的知識と国語・英語の教科教育学に基づく知見をもとに、授業実践の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる |
| | 社会系教科マネジメント | 教科内容 | 社会系教科の内容と社会系教科の背景にある専門諸科学について高い理解力をもっている |
| | | 教科教育 | 社会系教科の教科教育について高い実践力・研究力をもっている |
| | | 学び続けることができる探究力 | 社会系教科の授業力の向上のために、理論と実践の往還の中で、探究力をもって学び続けることができる |
| 理数系教科マネジメント | 教科内容 | 数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている | |
| | 教科教育 | 教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる実践力・研究力をもっている | |
| | 教科内容と教科教育の融合 | 数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業実践の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる | |
| 小学校教員養成特別 | 教科・領域の教育内容 | 小学校の教科・領域の教育内容の特質を知り、教員として研究対象とした教育内容について強靱な探究力をもって学び続けることができる | |
| | 教科・領域の教育方法 | 小学校の教科・領域の指導と評価にかかる知見を身に付け、実践と省察を通してそれらの能力を高め続けることができる | |
| | 教科・領域の教育内容と教科・領域の教育方法の融合 | 小学校の教科・領域の教育内容に関する高度な専門的知識と教科・領域の教育方法に関する知見をもとに、授業の内容と方法を開発・実践・省察していくことができる | |
| グローバル化推進教育リーダー | グローバル人材育成にかかわる教育内容・教育方法に関する知識・理解 | 学校現場におけるグローバル化を推進し、児童生徒のグローバルイシューに対する主体的な取り組みを促すにあたっての高度な専門的知見と実践的知見を有している | |
| | グローバル化推進教育リーダーとしての実践力 | グローバルな視点、豊かなコミュニケーション力、論理的思考力・表現力、問題解決能力、多様性の受容と尊重など、グローバル化推進教育リーダーとしての資質に裏付けされた実践的指導力を有している | |
| | 理論と実践の融合 | グローバル教育に関する高度な理論的・実践的知見をもとに、他者との連携・協働をとおして学校現場のグローバル化を推進するための授業改善、組織改善の具体的方法を開発・実践・省察・改善していくことができる | |
| 教育政策リーダー | 教育政策の知識と理論 | 教育行政のトップリーダーに必要な理論や知識を習得するとともに、社会や世界の状況を幅広く捉えることができる | |
| | マネジメント・リーダーシップ | 教育行政のトップリーダーとして、マネジメントの基礎とリーダーシップの基礎を身に付け、行動するトップリーダーとして、組織に変革型の行動を起こすことができる | |
| | 理論と実践の融合 | 教育行政の成果を生む行動を起こすために必要な知識と応用力（マネジメントとリーダーシップ）を身に付け、実際の教育行政に役立つ政策を提言書の形でまとめることができる | |
| 授業実践課題探究 | 学校教育全般にかかわる専門性 | 学校教育全般にわたっての専門的知見、実践的知見を有し、それらに基づく職能成長を継続することができる | |
| | 自他の教育実践をリフレクションする協働性 | 授業や学級・学校経営などの具体から、自他の教育実践をリフレクションする能力を有している | |
| | 理論と実践を融合する創造性 | 学校教育に関わる高度な理論や実践をもとに、自他の行動変容を促す改善策を創造することができる | |

教員養成スタンダード（大学院）

【基礎部分】自己評価票

| 学籍番号 | | 専攻 | | | |
|--|--------|---|--|-----|-----|
| ふりがな | | | | | |
| 氏名 | | コース | | | |
| <p>※ 以下の該当する□を■にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 現在教員である又は教員志望である <input type="checkbox"/> 教員志望でない（【基礎部分】の記入は省略可とします）</p> | | | | | |
| 5領域 | スタンダード | | （上段）学年当初の自己評価の数値を記入する （下段）学年末の自己評価の数値を記入する できない：1 少しできる：2 ほぼできる：3 十分できる：4 | | |
| | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
| 学び続ける教師 | 1 | 省察的実践による課題改善を図ることができる | | | |
| | 2 | 研究を通じた専門性向上をめざすことができる | | | |
| | 3 | 長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる | | | |
| 教師としての基本的素養 | 4 | 社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる | | | |
| | 5 | 教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている | | | |
| 児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導 | 6 | 児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる | | | |
| | 7 | 学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる | | | |
| | 8 | 児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる | | | |
| 教科等の指導 | 9 | 専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる | | | |
| | 10 | 学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる | | | |
| | 11 | 学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる | | | |
| | 12 | 教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる | | | |
| | 13 | 学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる | | | |
| 連携・協働 | 14 | 多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている | | | |
| | 15 | 保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している | | | |

教員養成スタンダード（大学院）
【基礎部分】自己評価票（幼年教育）

| 学籍番号 | | 専攻 | 人間発達教育専攻 | | |
|--|--------|--|--|-----|-----|
| ふりがな | | | | | |
| 氏名 | | コース | 幼年教育・発達支援コース | | |
| <p>※ 以下の該当する□を■にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 現在教員である又は教員志望である <input type="checkbox"/> 教員志望でない（【基礎部分】の記入は省略可とします）</p> | | | | | |
| 5領域 | スタンダード | | (上段) 学年当初の自己評価の数値を記入する (下段) 学年末の自己評価の数値を記入する できない : 1 少しできる : 2 ほぼできる : 3 十分できる : 4 | | |
| | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
| 学び続ける教師 | 1 | 省察的実践による課題改善を図ることができる | | | |
| | 2 | 研究を通じた専門性向上をめざすことができる | | | |
| | 3 | 長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる | | | |
| 教師としての基本的素養 | 4 | 社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる | | | |
| | 5 | 教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている | | | |
| 子ども理解に基づく指導と学級経営 | 6 | 子どもの発達についての知見を踏まえて一人ひとりの子どもにかかわることができる | | | |
| | 7 | 学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団の育成ができる | | | |
| | 8 | 子どもの多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる | | | |
| 保育の展開と指導 | 9 | 専門的な知見をもとに保育内容を探究し、教材開発につなげることができる | | | |
| | 10 | 保育方法を分析する幅広い知識を有し、子どもの遊びや育ちを支援することができる | | | |
| | 11 | 長期的な発達の見通しと子どもの実態を踏まえて指導計画に反映させることができる | | | |
| | 12 | 教師としての専門的な知見を保育研究に生かすことができる | | | |
| | 13 | 保育の評価に関する多面的な理解をもとに、評価を指導に生かすことができる | | | |
| 連携・協働 | 14 | 多様な場面で園内での協働を進める方法論を身につけている | | | |
| | 15 | 保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している | | | |

教員養成スタンダード（大学院）【基礎部分】自己評価票・裏面
（幼年教育も共通）

| |
|--|
| 【1年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】 |
| 【1年次修了時の振り返り】 |
| 【2年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】 |
| 【2年次修了時の振り返り】 |
| 【3年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】 |
| 【3年次修了時の振り返り】 |
| 【自己成長のあしあと（全課程修了時の基礎部分のスタンダードに関する振り返り）】 |
| 【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】 |
| () () () () () |

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は学務課へ (aca-std-gs@ml.hyogo-u.ac.jp)

教員養成スタンダード（大学院）

【専門性の実現に向けた】自己評価票

| | | | |
|--------------|---|-----|----------------|
| 学籍番号 | | 専攻 | 教育実践高度化専攻 |
| ふりがな | | | |
| 氏名 | | コース | 理数系教科マネジメントコース |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容 | 数学・理科を学ぶ楽しさを知り，教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている | | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科教育 | 教員として，算数・数学，理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し，高め続けることのできる実践力・研究力をもっている | | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容と教科教育の融合 | 数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学，理科の教科教育学に基づく知見をもとに，授業実践の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる | | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は学務課へ (aca-std-gs@ml.hyogo-u.ac.jp)

教員養成スタンダード（大学院）

【専門性の実現に向けた】自己評価票

| | | | |
|--|---|-----|----------------|
| 学籍番号 | | 専攻 | 教育実践高度化専攻 |
| ふりがな | | | |
| 氏名 | | コース | 理数系教科マネジメントコース |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容 | 数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている | | |
| 2年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科教育 | 教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる実践力・研究力をもっている | | |
| 2年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容と教科教育の融合 | 数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業実践の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる | | |
| 2年次修了時の振り返り | | | |
| 【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】 | | | |
| | | | |
| 【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】 | | | |
| () () () () () | | | |

☆必要に応じて各記入欄の行を追加してください。本様式が2頁に渡っても差し支えありません。

教員養成スタンダード（大学院）

【専門性の実現に向けた】自己評価票＜記入例＞

| | | | |
|--------------|---|--|----------------|
| 学籍番号 | | 専攻 | 教育実践高度化専攻 |
| ふりがな | | | |
| 氏名 | (現職教員学生) | コース | 理数系教科マネジメントコース |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容 | 数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている | <p>○授業やゼミを通して、専門的な数学・算数を学ぶことで、理論や教科内容の理解を深める。また、数学・算数を自分自身が愉しむ。</p> <p>○先行研究を読むことを通して、自分の研究テーマを決定する。</p> | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科教育 | 教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる実践力・研究力をもっている | <p>○今まで実践してきたことを振り返り、整理をする。そして、実践と大学で学んだ理論をつなげるようにしていく。</p> <p>○様々な授業方法や研究を知ることで、視野を広げ、自分の実践の幅を広げることができるようにする。</p> <p>○大学で学んだことを現場の教員に積極的に発信し、学校現場の実践に生かすことのできる研究を目指す。</p> | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |
| 観点 | スタンダード | 目 標 | |
| 教科内容と教科教育の融合 | 数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業実践の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる | <p>○小学校の算数の授業を中心に、子どもの認知面と情意面を向上させるために、どのような指導方法や授業デザインがよいか研究する。子ども研究、教科内容研究、授業研究を踏まえた、実践授業研究を中心におき、研究を進めていく。</p> | |
| 1年次修了時の振り返り | | | |

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は学務課へ (aca-std-gs@m1.hyogo-u.ac.jp)

教員養成スタンダード（大学院）自己評価票のダウンロード方法等について（学生用）

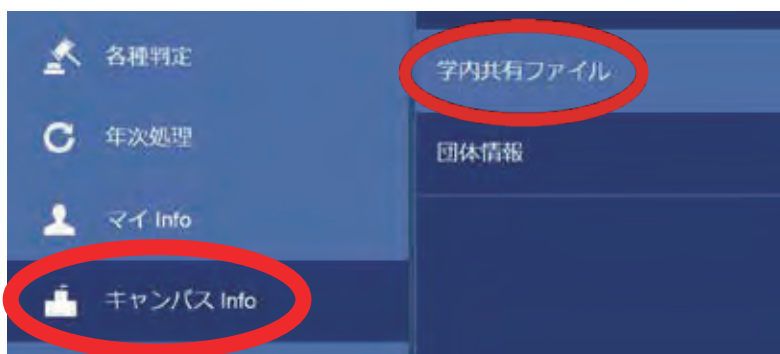
教員養成スタンダード（大学院）で使用する自己評価票は、教育支援システム（LiveCampusU）から各自でダウンロードし、ご使用ください。

1. 自己評価票のダウンロード方法について

- ① LiveCampusU にログインし、「メニュー」をクリックする。



- ② 「キャンパス Info」の「学内共有ファイル」をクリックする。



- ③ 学内共有ファイル一覧より、教員養成スタンダード（大学院）以下の自身の所属専攻名の▼をクリックする。自身の所属コース（長期履修学生については、自身のコース名の後ろに（長期履修学生）の表示がある項目）をクリックする。

【以下 例：人間発達教育専攻教育コミュニケーションコース学生の場合】

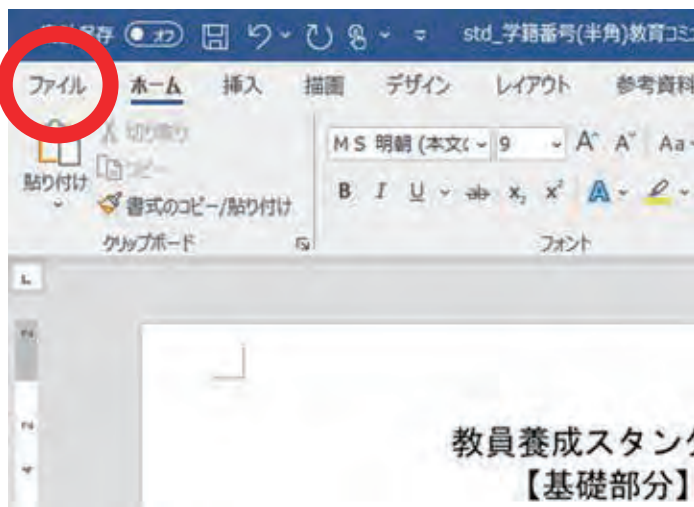
学務課>教員養成スタンダード（大学院）>01 人間発達教育専攻>01 教育コミュニケーションコース



④遷移先のページにて「std_学籍番号(半角)●●●●コース.docx」をクリックして Word ファイルをひらく。



⑤ Word ファイルを開きます。Word メニューの「ファイル」タブをクリックし、「名前を付けて保存」を選択し、デスクトップ等に保存してください。



◎ファイルの名前のつけ方

std_学籍番号(全て半角)

※学籍番号は、各自の学籍番号を入力してください。

【例】std_M12345A

※ファイル名を変えずに指導教員に提出してください。

★幼年教育・発達支援コース以外の学生が、幼稚園教諭を目指す等の場合には、幼年教育版の基礎部分を使用してもかまいません。この場合、「基礎部分のスタンダード(幼年教育)」自己評価票のファイルを使用し、通常版ファイルの基礎部分は空欄にしておいてください(該当学生は、2つのファイルを使用することになります)。

⑥「基礎部分のスタンダード」「専門性の実現に向けたスタンダード」を記入してください(P.13~参照)。

2. 自己評価票の記入・提出について

教員養成スタンダード（大学院）で使用する自己評価票は、1つのファイルを上書きしていくことで、大学院の学びを蓄積していきます。指導教員には、1-⑤で保存した学籍番号をつけたWordファイル（以下、「スタンダードファイル」という。）をメールに添付して提出しますが、修了時までこのファイルを使用することになります。

（1年次）



（1年次5月中旬まで）

「基礎部分のスタンダード※」自己評価票

- ①（表面）1年次列の上段に、学年当初の自己評価の数値（1～4）を記入する。
- ②（裏面）【1年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】欄を記入する。

「専門性の実現に向けたスタンダード」自己評価票

- ① 1年次用の自己評価票に、1年次学年当初の目標を記入する。
- スタンダードファイルをメールで指導教員に提出し、確認を受ける。

（2年次）



（2年次4月）

→「振り返りミーティング」（仮称）に向けて、各自1年次の振り返り及び2年次の目標設定のための準備を行う。

（2年次5月中旬まで）

→指導教員に相談し、1年次の自己評価票をもとに、2年次の「基礎部分のスタンダード※」と「専門性の実現に向けたスタンダード」を記入する。

「基礎部分のスタンダード※」自己評価票

- ①（表面）1年次列の下段に、1年次学年末の自己評価の数値（1～4）を記入する。
- ②（表面）2年次列の上段に、2年次学年当初の自己評価の数値（1～4）を記入する。
- ③（裏面）【1年次修了時の振り返り】欄を記入する。
- ④（裏面）【2年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】欄を記入する。

「専門性の実現に向けたスタンダード」自己評価票

- ① 1年次用の自己評価票に、1年次修了時の振り返りを記入する。
 - ② 2年次用の自己評価票に、2年次学年当初の目標を記入する。
- スタンダードファイルをメールで指導教員に提出し、確認を受ける。

（2年次で修了予定の学生、修了年の2月上旬まで）

「基礎部分のスタンダード※」自己評価票

- ①（表面）2年次列の下段に、2年次学年末の自己評価の数値（1～4）を記入する。
- ②（裏面）【2年次修了時の振り返り】欄を記入する。
- ③（裏面）【自己成長のあしあと】及び【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】欄を記入する。

「専門性の実現に向けたスタンダード」自己評価票

- ① 2年次用の自己評価票の【2年次修了時の振り返り】欄を記入する。
- ② 2年次用の自己評価票の【自己成長のあしあと】及び【自己成長を振り返るキーワードを5つ以

内で挙げること]欄を記入する。

→**スタンダードファイル**をメールで**指導教員**に提出する。

指導教員から、指導教員が総括コメントを記入した「専門性の実現に向けたスタンダード(2年次)」がフィードバックされます。



(3年次) [長期履修学生, 長期在学学生]

(3年次(長期履修学生及び長期在学学生)4月)

→「振り返りミーティング」(仮称)に向けて、各自2年次の振り返り及び3年次の目標設定のための準備を行う。

(3年次(長期履修学生及び長期在学学生)5月中旬まで)

→指導教員に相談し、1年次及び2年次の自己評価票をもとに、3年次の「基礎部分のスタンダード※」と「専門性の実現に向けたスタンダード」を記入する。

「基礎部分のスタンダード※」自己評価票

- ①(表面)2年次列の下段に、2年次学年末の自己評価の数値(1~4)を記入する。
- ②(表面)3年次列の上段に、3年次学年当初の自己評価の数値(1~4)を記入する。
- ③(裏面)【2年次修了時の振り返り】欄を記入する。
- ④(裏面)【3年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】欄を記入する。

「専門性の実現に向けたスタンダード」自己評価票

- ①2年次用の自己評価票に、2年次修了時の振り返りを記入する。
 - ②3年次用の自己評価票に、3年次学年当初の目標を記入する。
- スタンダードファイル**をメールで**指導教員**に提出し、確認を受ける。

(修了予定の学生、修了年の2月上旬まで)

「基礎部分のスタンダード※」自己評価票

- ①(表面)3年次列の下段に、3年次学年末の自己評価の数値(1~4)を記入する。
- ②(裏面)【3年次修了時の振り返り】欄を記入する。
- ③(裏面)【自己成長のあしあと】及び【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】欄を記入する。

「専門性の実現に向けたスタンダード」自己評価票

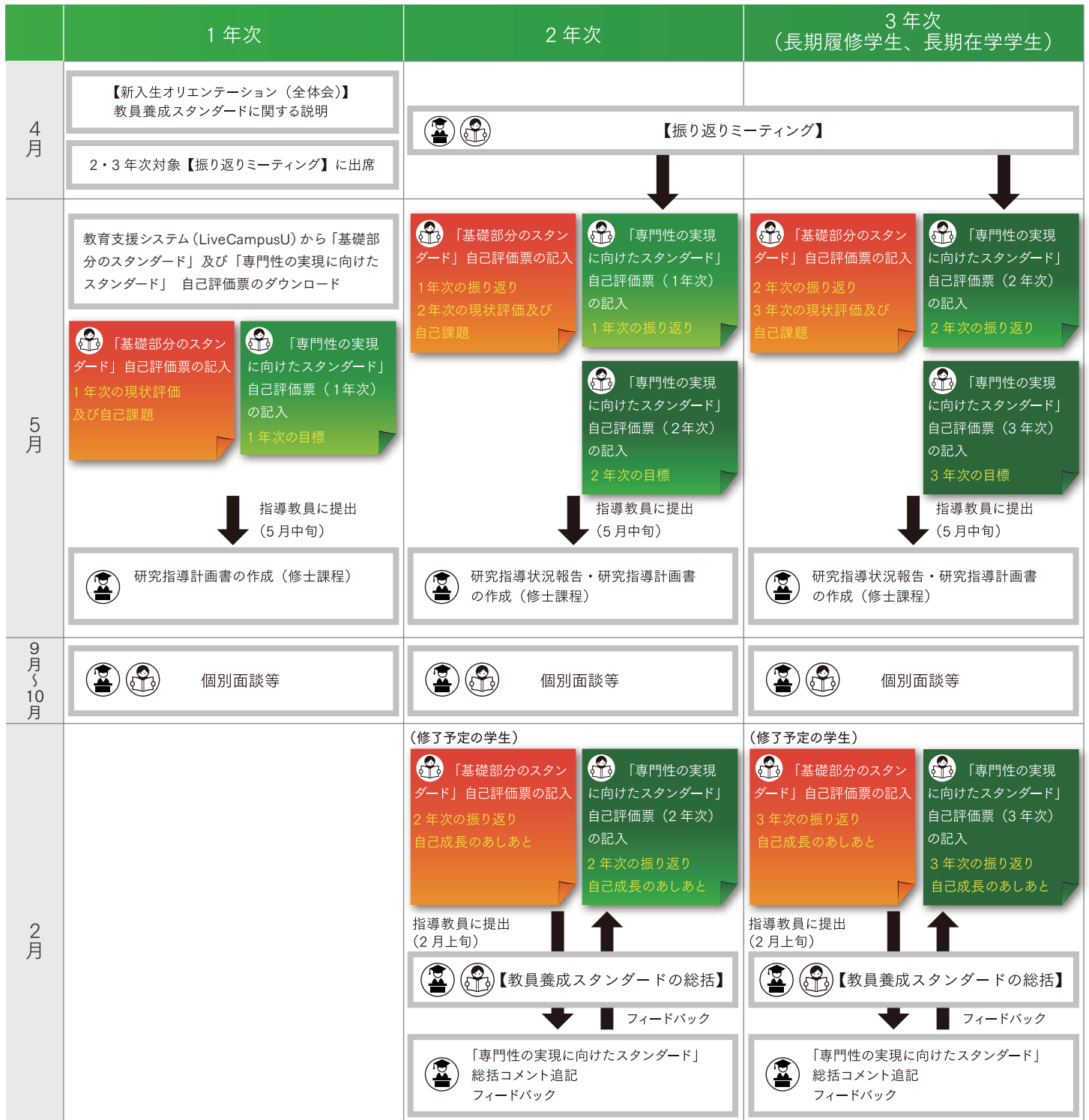
- ①3年次用の自己評価票の【3年次修了時の振り返り】欄を記入する。
 - ②3年次用の自己評価票の【自己成長のあしあと】及び【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】欄を記入する。
- スタンダードファイル**をメールで**指導教員**に提出する。
- 指導教員から、指導教員が総括コメントを記入した「専門性の実現に向けたスタンダード(3年次)」がフィードバックされます。

※小学校教員養成特別コース(3年制コース)の学生は、学校教育学部の教員養成スタンダードを適用するため、「基礎部分のスタンダード」自己評価票の記入は必要ありません。

自己評価票データについては、将来的に**個人が特定されない形に処理**した上で学術的な調査研究に利用するため、修了年次の終わりに皆さんに対し「同意書」により、その利用の了承を得る予定です。

教員養成スタンダード(大学院)の運用スケジュール

学生 指導教員



(1年次) 学生は、「基礎部分のスタンダード*」及び「専門性の実現に向けたスタンダード」の自己評価票を作成し、現状評価、自己課題や目標設定を行い、指導教員に提出します。

(2年次) 学生は、指導教員と相談し、1年次で設定した自己課題や目標の「振り返り」を行いながら、2年次の自己課題や目標設定を行い、指導教員に提出します。

(修了予定の学生は) 修了年の2月に、2年次で設定した自己課題や目標の「振り返り」を行い、「自己成長のあしあと」を記録します。それに基づいて個別面談等による教員養成スタンダード(大学院)の総括を行い、指導教員は総括コメントを追記し、学生にフィードバックします。

(3年次(長期履修学生及び長期在学学生)) 学生は、指導教員と相談し、2年次で設定した自己課題や目標の「振り返り」を行いながら、3年次の自己課題や目標設定を行い、指導教員に提出します。

(修了予定の学生は) 修了年の2月に、3年次で設定した自己課題や目標の「振り返り」を行い、「自己成長のあしあと」を記録します。それに基づいて個別面談等による教員養成スタンダード(大学院)の総括を行い、指導教員は総括コメントを追記し、学生にフィードバックします。

*…基礎部分のスタンダードは、教員免許状を所有していない学生に対しては柔軟に対応することとしています。